

## 2023年度 自己評価・学校関係者評価結果 報告書

### 1 本園の教育目標

- ① のびのびと明るく心身ともに健康でたくましい子どもに育てる
- ② 頑張る精神を身につけ創造力豊かな子どもに育てる
- ③ 教育の原点である「ありがとう」という感謝の心や「ごめんなさい」が素直に言える子どもに育てる

### 2 本年度、重点的に取り組む具体的な目標

- ◇各学年に合わせた「子ども主体の保育」の継続と行事への取組みを実施
- ◇基本的な生活習慣が身につくように指導していく
- ◇運動能力の向上につながる遊び、自然に触れる機会を増やす
- ◇特別支援が必要な園児と保護者への適切な対応
- ◇行事の見直し

### 3 評価項目の達成と取組み状況

評価項目	結果	取組み状況
学年に合わせた「子ども主体の保育」の継続	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一昨年度から意識して取り組んできた「子ども主体となる保育」を具体化していった。子ども間の相談や話し合いによる決定事項を増やし、年長・年中は行事にも取り入れた。その結果、やりたい事を話し合い、達成するプロセスを楽しむことができた。</li> <li>○ 年少はまだ話し合うことは難しい年齢で、保育者の促しが必要であったが3学期終了の頃には少しずつ考えを話せるようになった。</li> </ul>
基本的な生活習慣の指導の徹底	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナが5類となっても、感染症対策として習慣化されている手洗いやうがい、食事前の手指消毒などを続けていった。</li> <li>○ 「○○ちゃんどうぞ」「ありがとう」が自然に言えるように声を掛け続けた。自発的に挨拶をし、素直に「ごめんね」が言えるようになるには、この3年間の継続が肝心でそれが身につく為、丁寧に言い続けていった。</li> <li>○ 偏食のある園児には根気よく声を掛け続け、少しでも食べることができたら褒めるを繰り返すが、園の取組みだけでは難しさを感じた。</li> <li>○ 食への興味を持たせるよう年長はピーマンの苗植え、水やり、収穫、順番に持ち帰り、またクッキングでカレーに入れて食する経験をした。</li> <li>○ 幼児期に身に付けておきたい食事マナーとして、箸やスプーン等の持ち方や使い方、食べる際の姿勢など、個々に気になる場面で指導や声掛けをしていった。</li> </ul>
運動能力と自然への関心	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 縄跳びが上手できるように年中・年長への指導を強化した。年長は大縄跳びに挑戦し運動会で披露し、年中は前飛びの練習を定期的に行いコツをつかんできた。</li> <li>○ 冬の間、曜日を決めマラソンを行い、初めて園外(武庫川)にてマラソンを実施した。</li> <li>○ 草花を使い色水遊びをし、手で画用紙にお絵描きやおままごなどを楽しんだ。</li> <li>○ ピーマン、チューリップ、桜草、ヒヤシンスなどの水やりや観察で成長を学んだ。</li> </ul>
特別支援教育	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県の子育て支援事業「キダーカウセリング」を今年度は14回に増加し臨床心理士による園児の考察を共有し、関わり方など専門的な知識を学んだ。対象児がストレスなく園生活が送れるよう心理士の助言を参考に、保護者とも内容を共有し、コミュニケーションを図るよう努めた。</li> </ul>
行事の見直し	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナの影響で昨年度まで制約があった行事を見直しつつ戻していった。</li> <li>・お誕生日会:全員が集合し全園児とお誕生月の保護者の方参加で月毎にお祝いした。</li> <li>・入園式、春の遠足、プールあそび、七夕まつり、運動会、いもほり、クリスマス会など実施の見合わせや学年別や時間差で行っていた行事を、皆で楽しむことができた。</li> <li>・黙食を解禁し、賑やかな食事時間が戻った。</li> <li>・年長は親子でのお別れ遠足を変更し、子ども達がやりたい事を話し合い、園庭や園内で会食付きのお別れパーティーを実施し、卒園前に親子での楽しいひと時を過ごした。</li> </ul>

#### 4 学校評価の総合的な評価結果

結果	理由
A	上記課題については学年毎に話し合いを重ね、行事前には担当者を中心にミーティングを開き教職員が意思疎通を図ることで、取り組んでいった

#### 評価結果の表示

(A…十分に達成されている B…達成されている C…取り組まれているが成果が十分でない

D…取り組みが不十分)

#### 5 今後取り組むべき課題

- ・「子ども主体の保育」の実現が進んでいくにつれて、自由にするさじ加減に学年差があると共に個人差もあり大変難しかった。園児にとって大切な「自分達で考える力」を大人が奪ってはいけない事を常に心に留め引き続き子ども中心の保育「子ども主体の保育」を考えていく。
- ・歩かない子どもが増え運動能力に個人差がある為、体育指導日を増やし園との連携を図り日常での取り入れ方を学び、子ども達と保護者に伝えていく。

課題	具体的な取り組み方法
子ども主体の保育の継続	園児の考えを尊重し保ちながら、更に子ども主体の保育を継続し発展していくための環境構成を、学年単位で子ども達の特徴も踏まえ、考えていく。
運動能力の向上	体育指導日を年間19回を23回に増やし、指導員が来る日は体育だけでなく園で一日過ごし子ども達にとって今までと違う新たな刺激を与えていく。また更に、園外保育を増やしていく。
特別支援が必要な園児と保護者への対応	特別支援を必要とする園児の早期発見に努め、保護者への丁寧な対応を行う。対象児に必要な配慮の方法をカウンセラーや保護者、現場の教職員で共有していく。

#### 6 学校関係者評価委員会の評価

- ・子ども主体の保育のとりくみが、普段・行事にも表れておりとても良かった。子どもの成長を実感できた
- ・コロナ禍での経験から行事も一つ一ついねいに見直して下さり、みんなでのしむことができた
- ・子ども主体の保育を念頭に臨機応変に変化している点が良かった
- ・お互いの意見を尊重できるよう成長していると感じられています
- ・子どもたちを第一に考えて下さっているのがうれしい
- ・生き生きとした子どもたちの表情を見るのができてうれしいです
- ・コロナ禍での経験も活かして下さりさまざまな行事の復活に取り組んで下さることが良かった
- ・先生方が園児の自主性を尊重し、高めたために日々して下さることが子供から伝わってきた。